

キュックリヒ先生の著作（追加）

これまで引用されたり、著作目録に記載されることのなかったキュックリヒ先生執筆の資料を入手しましたので、関係者の同意を得て、ここに紹介します。

著者： ゲルトルド・エ・キュックリヒ

タイトル： 乳児の保育

掲載紙： 乳幼児保育 乳児院の機関紙

巻数： 第7号

発行日： 1966年（昭和41年）12月20日

発行所： 東京都千代田区三年町1番地 全国社会福祉協議会 乳児福祉協議会

発行人： 遠藤省三

編集人： 長谷川浩通

掲載頁： (2)～(4)

(広報部)

乳児の保育

埼玉県・愛泉乳児院

院長
ゲルトルド・エ
・キユツクリヒ

一、乳児保育の 生れるまで

私どもの時代になってから、人間形成のなかに一つの新しいことは生まれてきました。それは「乳児保育」ということです。それまでの生まれたばかりの人間の存在は、母親の存在といっしょであって、母は子どもと共に生活してきました。医学の面では産婦人科の乳児室にいる赤ちゃんの可愛い顔を、ガラス窓からみるだけであつたし、学問のなかにも赤ちゃんのことは取上げていませんでした。商店には赤ちゃんの専用の用品がりましたが、これも赤ちゃんのいる家庭や親戚や有志のほかは出入りしなかつたでしょう。一方、家庭のなかの赤ちゃんのためにいろいろ特別な行事が行なわれていました。各文化圏において、各々の宗教に於いて三日月あるいは七日月、または幾週間目に儀式があつて、子供に名前を与えた親戚へ連れていくお祝い等がありました。

医学、宗教、家庭生活、これは赤ちゃんの生活環境でありました。母親は子供をおんぶして、また乳母車を押して、自分の行くところにも赤ちゃんも連れていったのです。買物も旅行も訪問も娯楽の場所にまでも、赤ちゃんを連れて

いき、お母さんと他の人の関係を味わいつつ、にぎやかな環境が与えられました。そしてことばの発達、人間関係も心配なく与えられていたのです。

また家庭制度によって、種々の保護や保障が与えられていました。もちろん昔にもいろいろな病氣、事故、家庭内の問題があつたに違いないけれど、その家の方針に従つて、小さい子供の育て方、生活の安定が備えられていたのです。病氣の場合は、病院の小児科が責任をもつて子供の健康のためにできるだけの相談や治療を与えました。

今日も一般家庭では、生まれた赤ちゃんに対して積極的な努力、よるこばしい歓迎、また真実な愛情によつてはぐくんでいます。しかし、各文化圏において、社会構造の激しい変化を迎へ、またいまなおその状態が存続しています。産業、人口問題、住宅問題、母親労働問題、伝統のくずれ、現代人の享樂心等、これらの要素を考へてみると、生まれたばかりの人の円満なために、実によくないものが多くあるのです。一ことでいえば、母親の暖かいふところにはぐまれていた乳児は、いまや社会の広い舞台に、一つの姿となつて現われてきました。家庭計画の声もあり、児童福祉法ができ、一時保護所もあり、長期に母親から離れた子供にたいして、専門的な育児の場も、非常に増えています。

そしてますます、母親はその国の産業発達過程のなかに必要な要素となり、また家庭の経済のためにはお働かねばならない人です。

この問題は始めて、イギリスにおいて労働社会のなかに明るみに出されてきて、そこでは、

割合に早くから赤ちゃんのための専門的保育が発達してきました。そして工場内の乳児室、貧困者の多く住んでいるスラムのわきに保育所遊園地、診療所等がさかんにになりました。いうまでもなく、そのためにそういう仕事をする人を養成され、乳児保育の専門家の姿ができました。

まもなく各国の工業社会のなかに同じように赤ちゃんの専門のあらゆる働きが発達してきて今日、日本の社会のなかで私たちは立上つて、時代の人間形成が乳児時代から正しくスタートすべきだとの問題を感じて、乳児保育をいかにしたらよいか考へてみたいと思ひます。

二、乳児保育の問題

点について

(一) 共同生活問題

一人の子どもに一人の母親ということが、健全な人間形成の基礎であるといふことは、私たちがよく知りよく認めていた真理です。けれども施設の共同生活におかれては赤ちゃんには長所と短所があると思ひます。長所は専門家の手にあずけられているから、身の発育は専門の手によつて凡ての施設の子に平等に与えられている。その共同生活の施設は建物も設備も環境も、健康にさしつかえない所であつて、貧しい家庭には与えられていないものが多く与えられている。日あたりもよく、水もさしつかえなく、食物も栄養士の技術によつて与えられています。職員もいて、沢山の可愛らしい仲間もいっしょにいる。おもちゃの音、レコードの音、歌の音がどんと聞こえてきます。乳児院、保

育所の乳児室、それはそれは明るい美しい共同生活の場所です。

けれども赤ちゃんは自分の順番を待たねばなりません。また乳児二・五人に一人という職員数の規定のために、一日に何回も世話をして下さるおばさん、お姉さんが変わります。他の赤ちゃんの手にあるおもちゃを簡単には自分で取つてはいけません。忙しい職員の方は、つくしてもつくしても、その小さき生命に満足した愛情を与えられるかどうか問題です。

(二) 経済問題

経済問題としては、一人の赤ちゃんに必要な設備で着物、食物、遊び道具等が施設の予算の中に含まれています。科学的診断、衛生監査、医学的治療も含まれています。職員は労働者の母親と異つて、乳児の生活のために施設の中に勤務しています。またその子の肉體精神発達において、施設変更、あるいは里子にいく、または養子にいく準備がその子のために与えられています。

けれどもその中に、もうすでに一つの大きな危険があります。経済的安定は精神的安定をこばみます。わが子のために泣く、わが子のために祈る、わが子のために犠牲を与える、わが子のためにつくすという、人間の発達過程に非常に必要である人間関係は、経済的安定によつて果して美しくなるでしょうか。

(三) 施設従事者の問題

従事者の問題は、次のことです。母親の身がわりになるといふことは、一面非常に尊い仕事です。多くの女性は自分の幼な児をいだくことが許されていないので、施設の中に美しい満足をえます。しかし、熱心に人間形成のために

研究心をもって科学的に教育的に情動的に、大いに働きたい美しい若い女性の精力を得ることはできて、子どもを愛するということは必ずしも子どもを育てるにふさわしいといえないのです。また子どもとの関係がよくても、他の多くの勤務者と手をとり合っていくことが難しいために、従事者同士の問題が数多く施設の中にあります。

赤ちゃんたちの一部分は、冷たい人間関係のまぶさになってしまった家庭状態から施設にきたのかかわらず、そこにおいてこそ育てるのにふさわしい雰囲気がないならば、沢山お金をかけても、または美しい現代式建物の中であっても、赤ちゃんのためにはよくないいろいろの問題となりましょう。

しかし、そういう理論的なことのみと上げると、乳児施設で働いている私たちは、実際問題としてどうすればよいか解決になりません。これから乳児保育の実際問題について検討をいたしましょう。

三、乳児専門保育者の養成について

日本の場合、乳児保育者という専門的な人ができていなかったという事は、私個人としては残念だと思えます。看護婦さんは看護婦さんの役割を果している。今は、日本の女性教育の中に医学か教育かというのをいつまでもしないで、どなたか使命感に燃えている人がいらしたら、早く乳児専門養成所を作りなさいということをお願いしたい。赤ちゃんの身体と心は同じく重大なもので、それを一つの専門にできれば

よいと思えます。

医学関係の専門は、その先生方にお任せしても今ここに、赤ちゃんの専門大学があるとしたら、どういふ専門科目があるでしょうか。私は少なくとも十科目はあると思えます。

まず、一、乳児期の言語、そして実際の問題として、二、乳児期のためのうたをならうこと三、乳児期の子どもにみせる絵、絵本、紙芝居の研究、それから、四、赤ちゃんと一緒に遊ぶ指または全身を使う遊び、少なくとも手を動かす十〜十二位の違ったおゆうぎ、また輪になつたり列になつたり全身を動かすおゆうぎ、そしてあんよのできない子のおゆうぎ、それから五、赤ちゃんの頑具の研究、六、赤ちゃんの集団生活に変化をつけるための行事、例えば誕生会、遠足、散歩など、七、乳児の部屋の飾り方、絵やきりぬきしたポスターをどの位の高さで、どういふ材料で、どういふ大きさで、どの部屋に飾るか、それと同時に外の自然界との関係、自然の要素を部屋の中や建物のまわりどのようにならわすか。八、二、三才児のために机の上のクレヨン、積木、紙を使つての工作的な遊び方、九、赤ちゃんの二才児中心の真似、パート遊び、お手伝いとか、ごっこ生活の指導、十、最後にこれらのことが専門的に出来るためにフレイルの恩物の一部と、特にモンテソリーの保育材料の研究、以上、十の異なる科目を私は乳児専門大学の科目にしたいと思えます。

四、カリキュラムとその運用について

かにカリキュラムが必要でありましょう。昔

は学校に教科書があれば、子どもに必要なものは間に合うと思われた時代もありました。その後、百二十年以上前にドイツのフリードリッヒ・フレイル先生によって、幼児教育のためにカリキュラム的なものが作られたのです。即ち、あの偉大なる二十の異なる恩物です。また幼児専門の歌、手先の遊戯、リズム等です。今日においては、素晴らしい幼児教育カリキュラムが、保育者の手に与えられていますが、乳児保育のために私共は、必要な材料を早く与えられるように努力しなければなりません。

今日の多くの乳幼児保育の場において、幼児期のもので使いたい、テンポをスローに、あるいは三節ある歌の一節だけを使って、乳児のために早目に幼児期のもので用いようとしているのです。

私共、言語の発達を考えると、幼児期のうたよりも乳児期のうたを、早く作っていただくようにしなければなりません。この甲令においてことばをくり返す訓練によって覚えた簡単なことばを、うたい続けるようになったがあげばよいと思えます。

私の習った昔からの日本の母親のうたの中に非常にふさわしいものがあります。「スイスイ スッコロパン、ゴマミソズイ」のようなものは情動的、知的内容を教えるものではないかもしれませんが、あの調子によってことばを使う楽しみが子どもにも与えられてくるのです。ですから私共は、昔からのものをよく捜して、集めてまた今日のものを取入れて、赤ちゃんのうたを先生方に作っていただくように願ってやみませ

ん。

たう歌を決めて下さい。一人一人が自分勝手に選んだのでは統一がなくて思わしくありません。そして全身をそのリズムに動かせる遊戯も指さきだけの遊びも一通りにきめて下さい。保育者の動作の統一が、非常に大切なのです。もし、その子がお母さんのそばであったなら、お母さんはうたをうたうときにきくと、いつでも同じ動作を示すでしょう。例えば、「夕やけこやけ」の時の空の示し方等、統一してなければ子どもは手を調子に合わせる事がいつまでも出来ないでしょう。

また、もう一つ赤ちゃんを観察して大事な点があります。私は一才児足らずの子どもたちと「むすんでひらいて」をよくします。私がしている間、子どもたちは案外みているだけなのですが、一回うたったら、今度はまたことを真似して、いわゆるくり返してみたいような様子をよく見受けました。その時は十分に時間を与えて下さい。うたのことを取り上げましたが、おはなしもよくことばをくり返して話して下さい。絵本をみせるのも、同じ絵を少しづつくり返して下さいます。

もう一つは、子どもの遊びの生活です。母親のそばの赤ちゃんは、母親と生活をともにする楽しみを与えられています。ぞうきんがけや物をふいたり、運んだり、片付けたり、作ったりしている生活の真似をして、そして楽しい遊びが出来る。施設の中では、そういうような労働的な機能はみんな別のところで行われているので、子どもが大人のすることをみる機会が少なすぎる。そしていわゆるおもちゃ箱の前で遊ぶことその他に、生活的な遊びが余りありません。施設の保育者は、子どものそばに座っておもち

やと子どもの仲間になっただけでは、子どもの保育に足りないのです。おばさんやお姉さんの勤務者は、片付ける時、物を運ぶ時、整理する時、配る時、多少でも子どもを相手にして母親らしい動きがあつてほしい。

そしてもう一つは、この時から想像力と創造力を働かせるように行かねばなりません。プラスチックの熊ちゃん、セルロイドのまわり、それらのものは十分ではありません。乳児室の中に重ねる、合せる、入れる、出せる、結べる、たんでひらいて、破いて片付けて、それらのことを十分に豊富に出来るように生活に創作的な機会を考えて下さい。もちろん、情緒的色彩的に恵まれているようなおもちゃも、乳児室にほしいと思います。適当な箱、積木、こぎれ等を置いておくことを忘れないで下さい。やはり施設の中にも、お母さんのそばによく聞く「お手つだい」ということはほしい。専門的に研究なさりたいならば、モンテソーリ(イタリヤの教育者)の生活指導の材料を研究すればアイデアが沢山与えられてくるでしょう。

もう一つの実践的問題は、赤ちゃんと地域という問題です。保育のカリキュラムの中に二才頃になると、外へ出て人と人との間に動くこと散歩、乗り物、遠足等の体験が必要になります。その前にまた、乳母車の中にネンネしてもブーパー、あるいは電車をみる、また通る人の姿をみることは、健康な赤ちゃんのよい保育になります。

もちろん、これら実際問題のカリキュラム研究は、健康体の赤ちゃんの保育を意味しているのです。病身の赤ちゃんのためにも、お医者さんの指導によって、おもちゃあるいは精神的刺

激がどの位ゆるされるか、よく相談して適当な保育を考えてあげて下さい。

五、乳児保育の実際について

乳児のための「保育」が行われている乳児院(園)では、生活のリズムがよくなつていきまふ。勤務の内容は、学校や幼稚園のように明確に定められます。スケジュールをまもるなら、子どもはそれに従つて成長します。今の時代の人間にとって、スケジュールにそつた過し方は非常に大切です。それは、強制的、束縛的なものでなく、幸福感をもつた服従でなければいけません。静かな環境に恵まれている家庭の子も、施設内で育てられている児も、しつけと教育の調和のとれたよい雰囲気の中になると、与えられている状態に自分を適合出来るようになります。身体のために大切な条件である。

「規則正しさ」は精神的生命にも同じく必要です。その生命の発達法則に従つて、赤ちゃんは毎日毎日新しいことを多く、覚える、学ぶ、体験しなければなりません。一月の間で大変違つていきます。大きくなるのです。その生命の成長を保存する私共は、邪魔になる悪しき感化から子どもを救わなくてはなりません。

このことでの一つの問題があります。乳児院ではなく、保育所の乳児のことですが、この子どもたちが、毎日毎日非常につらい通園をしています。家庭と園のコントラスト、保育の手の二重性、養いのコントラスト、等の問題に対して注意深く対処してほしい。保育者は母親のようには出来ません。母親は保育者のようには出来

ません。けれどもこの二人がよい連絡をもつて保育の方針を共に守るなら、特殊な調和が生れてくるでしょう。保育所は子どもの「駐車場」ではなく、家庭は「モテル」でもない。母と保育者は一つの偉大なる養育の力とならなくてははいけません。朝の送り、午後の迎え、この大事な時間の持ち方によって、子どもの一日の過し方がまよつてくる。保育者はこの点に留意して、方針をたてるように努力をしなければなりません。

時代の子ノ 産業、経済、人口、文化社会の大舞台の真中に姿をみせている今日の赤ちゃんは、あすの世代の責任ある人間です。その人間形成の土台作り、生命の成長の出発をまもるということは、私共の責任です。どうぞ、自分のすぐれた技術を、また母性愛に恵まれている人格を、自分の知恵を、健康を、祈りを、この赤ちゃんのためにこまごましましょう。

キヨックリ先生のこと

明治三〇年ベルリンにて生れ、ベスタロッチ・フレイベルハウス、並に女子高等師範学校を卒業し、保育者養成教師となり、日本に大正十一年宣教師として派遣された。そして東京保育女学院を設立し、その後東洋英和の教育課程教授となり、昭和二七年に至る。その間、戦前は種々の児童施設の仕事をし、戦後、埼玉に戦災孤児の施設愛泉寮を、二三年に愛泉乳児院、二八年に養老施設を設立、愛の泉の理事に就任する。現在は乳児院、保育所、養護施設、老人ホームを含む愛の泉の理事長のかたわら、和泉短大の教授と草苑保育学校の講師として活躍されている。三九年に勲四等瑞宝章を授与された。

乳幼児集団保育の手引

A 5判 352頁 定価 650円

全社協乳児福祉協議会編

いよいよ待望久しい集団保育の完全な指導書がで
き上りました。基礎知識と実地の指導方策につい
て、詳細かつ具体的に要点を網羅された最も良き必

携の参考書としておすすめします。(乳児福祉協議会事務局にて予
約お申込みを受け付けます。)

日本小児医事出版社 東京都千代田区神田鍛冶町2-12和光堂ビル内
振替(東京) 108460 TEL(256) 4983

一 主要執筆者

- 夫三義之代 武子 毅み道元 代良
- 節省信高 郁 喜 代と き 浩 重公一
- 美藤井松田 木 羽 木岡 木谷 坂森 島
- 渥遠平 赤鶴 二千鈴 吉青 長田 梅大
- 厚生省 児童家庭局長
- 乳児福祉協議会 会長
- お茶の水女子大 教授
- 目黒 乳児院 院長
- 日本女子大 児童研究所 長
- 八王子 乳児院 院長
- 都立 母子保健院 院長
- 都立 保育学 院 院長
- 都立 母子保健院 院長
- 武蔵野 赤十字 保育園 長
- 麻布 乳児院 院長
- 道立 中央 乳児院 院長
- 二葉 乳児院 院長
- 東京都 母子衛生 課長